

(案)

令和 7年11月13日

和光市子ども・子育て支援会議
会長 森田 明美 様

和光市子ども・子育て支援会議
こども・若者部会
部会長 中 智美

令和7年度第1回和光市子ども・子育て支援会議こども・若者部会に付された事項に対する審議結果について（報告）

令和7年8月27日付で当部会に付された事項について、和光市こども計画を踏まえて審査した結果、次のとおり結論を得ましたので、報告します。

記

1 議題

- (1) こどもの権利と和光市こども計画について
- (2) こども・若者部会について
- (3) こどもが大切にしていること〈ワーク形式〉
～わくらぼまつりアンケート結果とこどもワークショップ結果から考える～
- (4) その他

2 審議内容

- (1) こどもの権利と和光市こども計画について

【ご意見】

たくさんこども向けにアンケートを実施していることですが、学校におけるアンケートはじっくり取り組めず、中には提出しない人もいると思います。全員の意見を取り入れたいのであれば、全員が自ら答えたくなるような方法を考える必要があると思います。

【回答】

和光市こども計画を作成するにあたって、和光市の公立小学校に在籍する小学4年生、中学1年生に学校にご協力をいただき、オンラインで実施しました。また、市内在住の18歳から20歳の若者を対象にした若者アンケートは、クーポン交換と引き換えにオンラインで実施しました。有効回収率は、小学生調査は73.9%、中学生調査は79.8%、若者調査は82.6%となっております。今後とも教育委員会の協力等、様々な連携により、こどもたちが自分自身と向き合って安心して、進んで意見表明をしたくなるような手法を検討していきます。

(2) こども・若者部会について

【ご意見】

若者の活躍の場がないことを現状として挙げていますが、周知が足りていないのではないかと思います。

【ご意見】

こども・若者の活躍の場については、機会はあるが、知られてないのだと考えます。若者からすると、InstagramやXは利用しますが、市のホームページにはなかなかアクセスしません。駅や学校等もう少し身近な場所で周知を行うと良いのではないかと考えます。

【ご意見】

アンケート等は高校生までの実施となることが多いかと思いますが、大学生になると考え方も変わると思います。大学生になって、学校行けなくなってしまう人もいます。不登校になってしまった人々が話せるような、社会に出たいと思えるような場を設けるべきだと考えます。

【回答】

特に若者への周知方法については、課題と考えています。和光市こども計画において、若者に向けた市の施策や文化、イベント情報等をより効果的な手法で発信していくことを掲げています。若者に向けた発信方法を若者とともに考えるとともに、こども・若者部会においても検討していきます。

(3) こどもが大切にしていること～わくらぼまつりアンケート結果とこどもワークシヨップの結果から考える～

【ワークでのご意見】

- ・この会議のように、行政が実施するような秘密が守られた空間の中では安心して発言ができる。
- ・市長への提案という手紙で意見を出すこともできるが、その案内等が大人向けになっているので、子どもが意見を出すことは難しい。子ども向けの案内も必要だと思う。
- ・子ども・若者にアンケート調査やワークショップ等のイベントで意見と聞くときは、興味を持ってもらう仕掛けが必要だと思う。
- ・若者が集まる場所で若者向けの周知をすると届きやすいと思う。

【回答】

子どもたちに聴いた「自分が大切にしたいこと」は、足りてないから大切にしたいと思うのか、満たされているから大切だと思うのか、その辺りは直接ヒアリングをしないと分からぬことを感じました。今後、様々な手法により、その回答にいたる子どもの想いを丁寧に聴いていきたいと考えます。

以上